

S02-1 不斉触媒反応の開発（日本）＋糖転移酵素触媒の機能解析（米国）→そして生体内に翻訳後修飾を人為導入する人工触媒の研究へ

○山次 健三¹

¹東大院薬

学位研究（東大院薬・柴崎正勝研究室）と留学先での研究（米国ウィスコンシン州立大学-マディソン校化学科・Laura Kiessling 研究室）がどのようにして現在の研究へと結びついているかについて、ひとつの例として演者の経験を紹介したい。演者は学位研究として生理活性物質の効率的な生産のための触媒化学、留学先では生体触媒である酵素、特に糖転移ポリメラーゼの機能解析、そして現在は生体内、特にヒストンに対して翻訳後修飾を人為的に導入できる化学触媒の開発に携わっている。触媒化学を基盤としながら生命科学に貢献できる研究を目指して行なってきた。本発表では、その時々によろしく考えてこのようなキャリアを選択してきたか、それが現在の研究にどのような影響を持ったか、良い点・反省点、双方に触れながら整理したい。